

## 令和3年度第5回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和4年2月9日(水) 15:20~16:30

2 場所 湖南高等学校 図書室

3 参加者

委員 (敬称略・順不同)

小山 伝一郎、佐藤 忠男、満田 仁一、鈴木 勝美、桑名 秀一郎、和田 祐樹、薄 良枝、  
山口 正国、酒井 祐治

事務局

渡辺 延幸、遠藤 潤、木村 清志、高柴 有一、森 修、伊藤 恵美、五十嵐 稜、大山 洋子

4 内容

(1) 開会のことば 満田 仁一副会長

(2) 会長あいさつ 小山 伝一郎会長

2月5日、郡山市「まちづくりハーモニー賞」授賞式に出席し、学校運営協議会を代表して賞状をいただききました。この賞は学校・地域そして皆さんの取組の成果が評価されたものだと思います。これを励みとして今後も皆さんと手を携えながら頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(3) 校長あいさつ 酒井 祐治校長

本日はコミュニティ・スクールとなって2年目、第5回学校運営協議会です。

今年度も本校の教育活動にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで生徒はコミュニティ・スクールを通じた行事等に満足しています。今後は生徒一人一人が主体的に考え、活動することができる取組にしていきたいと考えています。

前期選抜試験の志願状況が新聞発表されました。後期選抜試験まで含めて、本校志願者を確保していきたいと思っております。

1月30日(日)に日本橋ふくしま館 MIDETTE(ミデッテ)において湖南の魅力を発信する催しは新型コロナウイルス感染症の影響により中止になりました。新型コロナウイルス感染症が落ち着けば年度内に実施したいと考えています。

2月4日(金)には除雪ボランティアを実施しました。ボランティア依頼件数は去年の9件から今年は16件に増加しました。生徒達は一生懸命に除雪し、地域の方々から感謝の言葉をいただいています。今後も継続して活動していきたいと思っております。

新たな試みとして、生徒たちによる雪灯籠祭りを考えています。場所は中庭です。土日を除く2月22日(火)から3月1日(火)までの期間、雪灯籠にろうそくを灯す予定です。委員の和田さんのご協力のもと、福島大学生と一緒に取り組む企画として、高大交流による地域の魅力化を考えています。

今年度も生徒たちの考えを学校運営協議会で協議し、実現することができた1年だと思えます。本当にありがとうございました。来年度も現メンバーで継続的に活動していきたいと思っています。引き続きよろしくお願いします。

#### (4) 発表

##### ① 総合探究学習「地域ミライ探究成果発表」の取組（2年生2名）

～つくる班（6次化製品開発）～

###### □6次化商品のレシピ開発

・そば団子と蕎麦ケーキ

###### □蕎麦ケーキ「湖南 THE 1st」商品化のためのラベル作成

・モチーフは湖南のお地蔵さん

###### □湖南町商工祭にて販売

・1コ300円の蕎麦ケーキ「湖南 THE 1st」70個を45分で完売

###### 【委員からの感想】

○パワーポイントを使って「地域カダイ探究」「地域ミライ探究」の学びをまとめ、発表する機会は今年が初めてとのこと。引き続き魅力的な探究活動を続け、よりよい発表につなげて欲しい。

##### ② 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業による取組（1年生1名）

□東日本大震災原子力災害伝承館の語り部事業に参加した。

□震災は自分に関係ないと感じていたが、復興や震災の記憶や意識に温度差があることに気づいた。

□実際、伝承館に行くと、誰も何もない震災の風景・空間はとても不気味な感じがした。今まで当たり前だったものが一瞬でなくなる震災の恐ろしさを知ることができた。

□自分ができることは震災に関心・興味をもち、語り継ぐことだと気づいた。

###### 【委員からの感想】

○湖南町は直接的な被害は受けていないと思いがちだが、湖南町や湖南高校の中にも親類や友人などが被害にあいつらい体験をした方もいる。その方々から話を聞くのも良いと思う。

#### (5) 報告

##### ① 令和3年度郡山市市民活動推進顕彰事業（まちづくりハーモニー賞）受賞

授賞式には小山会長と酒井校長が参加した。

##### ② 第4回学校運営協議会議事録

##### ③ 学校評価アンケート結果

「湖南高校の行事は地域に貢献している」「湖南高校はコミュニティ・スクールとして、地域とともに、地域ならではの特色を生かした生徒・学校づくりをしている」ことについては、全委員が高評価した。

##### ④ 学校視察研修報告

今年は城北埼玉高等学校を訪問し、育てたい生徒像や学校の魅力化について学んだ。

⑤ 学校と地域の取組

□地域・学校の魅力化～『蕎麦プロジェクト』～

12月15日に蕎麦「収穫祭」を実施した。大盛況であった。

□地域の人的・物的資源活用～湖南高校応援隊『ここおた』～

1月28日に沼尻スキー場にて冬の遠足を実施した。地域ボランティア6人を講師に、生徒はスキーを教わった。実施後、生徒は来年度も冬の遠足を実施したいと振り返っている。

□行事イベントに相互参加～学校行事の連携『イベントに行ったり来たりしませんか』～

お年寄りからの要望もあり、2月4日に除雪ボランティア活動をした。高齢化が進む湖南では今後、依頼者の増加も予想される。放課後などの時間などにも実施していきたい。

⑥ 湖南高校と湖南町がよりつながりを深め、ともに魅力の向上を図っていくためのアンケート結果

□生徒は「地域との関わり」「蕎麦」「先生と生徒の距離の近さ」を湖南高校の魅力と捉えている。

⑦ 令和4年度のコミュニティ・スクールの取組

□「蕎麦プロジェクト」を軸に実施していく。

□総合的な探究の時間において、生徒は自然と人に恵まれた「地域」との交流の中で、地域社会と自分の魅力化を探究していく。

■1年生は『地域カダイ探求』

・湖南の地域理解

■2年生は『地域ミライ探求』

・蕎麦の6次化商品を「つくる」班

・古民家を利用して蕎麦商品や特産品を販売する「つなぐ」班

■3年生は『自分ミライ探究』

・2年間の実践・活動を自己実現につなげていく。

□探究学習の成果をコンテストにつなげていきたい。

⑧ その他（委員からの意見）

○湖南高校の3年間は教科の勉強だけではなく、様々な体験活動や社会勉強ができる。これは生徒たちの力になっていて、とても素晴らしい。今後も応援しているので頑張っていて欲しい。

○多くの高校で「学校の魅力化」が話題になっているが、なかなかうまくいっていない。湖南高校では、「高校生だからこそどんな活動ができるのか」という視点から湖南の魅力化を発信していきたい。

(6) 閉会のことば 満田 仁一副会長

(16:40 終了)